

2010年度・公式規則変更内容・決定報

(全4頁)

日本アメリカンフットボール協会
競技規則委員会



アメリカンフットボール公式規則を以下のように変更します。

[1] 2010年度・公式規則変更主要項目の解説 は、今年の公式規則変更を簡潔に解説したものです。

[2] 2010年度・公式規則変更 は、変更条文を掲載したものです。

この公式規則変更は2010年秋季公式戦より適用します。

[3] 2011年度・公式規則変更予定主要項目(予告) は、2011年秋季公式戦より適用を予定している主要項目で、現在決定している項目です。

[4] 2010年度・NCAA公式規則変更項目(参考) は、米国NCAAにおいて2010年秋季から採用する変更項目で、参考として記載します。日本における今後の採否は、2011年3月の競技規則委員会で決定します。

[1]2010年度・公式規則変更主要項目の解説

2010年度の公式規則変更主要項目は、次のとおりです。なお、各々の解説の最後の()内の英数字は、この変更が行われる公式規則の主たる「篇一章一条」を表します。

(1) スポーツマンシップに関するフットボール綱領の追加

☆従来、スポーツマンシップについての記載はフットボール綱領の中にあった。

★本年より従来に加え、フットボール綱領の前に、「スポーツマンシップについて」という項目を追加する。追加する内容は、次のとおりである。

1. スポーツマンらしからぬ行為が発生したプレーを見直すことで、現在の規則で規定されていて適用している内容の重要性を再確認することができる。それらの反則の多くは、注目を浴びようとする行為で、計画されていたり、過度であったり、長いあいだ行うものである。コーチは、チームプレーとしてのフットボールに重要な規律をプレーヤーに教えなければならない。
2. ヘッドコーチはゲームの最中だけではなく、ゲームの前後についてもプレーヤーのふるまいに責任がある。プレーヤーは試合開始前のフィールド上でのスポーツマンらしからぬ行為に注意する必要がある。そのような行為によって、キックオフ時に罰則が科せられたり、当該プレーヤーが資格没収となる可能性がある。このようなスポーツマンらしからぬ行為が続く場合、コーチや組織に対して罰則が科せられることがある。
3. 競技規則委員会は試合前の練習についての規定を持たない競技団体に対して、キックオフ60分前から45ヤードライン間の10ヤードを選手の立入禁止地域とすることを推奨する(“No-Man's Land”)。ただし、既に規定を設けている団体についてはそれを適用する。

(2) アイ・シェイドに関する規定の制定

☆従来、目の下に塗る、あるいは貼るアイ・シェイドは「不正な装具」の例外として認められており、特に制限等の

規定はなかった。

★本年よりアイ・シェイドの色は黒一色に規定され、また文字やロゴ、番号、シンボルマークなどを表示することが禁止となる。(1-4-5-i 例外)

(3) ブロッキング・ゾーンの定義の変更

☆2009年度にブロッキング・ゾーンが定義され、その中心は「スナッパー」とされた。

★本年より、ブロッキング・ゾーンの中心が「攻撃側中央のラインマン」となり、2008年度までの規則で規定されていたいわゆる「クリッピング・ゾーン」の中心と同様となる。なお、本年の変更はブロッキング・ゾーンの中心のプレーヤーの定義に関する変更であり、このブロッキング・ゾーンに関係するクリッピング、背後のブロックに関する規則は従来どおりである。(2-3-6-a)

(4) 負傷したプレーヤーに対する措置

☆従来、負傷してレフリー・タイムアウトを与えられたプレーヤーは、少なくとも1ダウン試合から離れば、試合に復帰することができた。また、ダウン間または節の終了時にチーム・タイムアウトを取れば、プレーヤーは試合から離れなくてもよかった。

★本年より、負傷のためのレフリー・タイムアウトがとられた場合、当該プレーヤーはその試合から離れ、その試合に復帰して出場することができなくなる。ただし、競技団体に認定された資格を有する医務担当者の許可があれば、その試合に復帰することができる。医務担当者の許可があった場合でも少なくとも1ダウンは試合から離れなければならない。本規則は、出血した選手および審判員にも適用される。(3-3-5)

(5) 腰より下のブロックに関する規定の変更

☆2009年度、(3)項のブロッキング・ゾーンの定義に伴い、腰より下のブロックが禁止されるプレーヤーに関する規定も変更された。

★本年より、以下のように変更となり、ほぼ2008年度の規則と同様となる。

1. スナップ時に攻撃側中央のラインマンから7ヤード以上離れて位置する攻撃側のラインマンは、ニュートラル・ゾーンを越えて10ヤードまでの間では、ボールの方向に対して腰より下のブロックをしてはならない。
2. バックスは、スナップ時に、身体フレームが完全にブロッキング・ゾーンの左右方向の外側に位置する場合、または身体フレームが完全に攻撃側中央のラインから2人目のラインのフレームの外側に位置する場合、またはモーションをしている場合、ニュートラル・ゾーンを越えて10ヤードまでの間では、ボールの方向に対して腰より下のブロックをしてはならない。(9-1-2-e-1, 2)

(6) 無防備な相手の首や頭部への接触に関する規定の追加

☆従来、ヘルメットの頂点から相手に当たり、狙い撃ちすること、および無防備な相手の首またはその上に対して最初に当たり、狙い撃ちすることは禁止されていた。

★本年より、この規則がより重要視される。具体的には、本項目が2つの条に分かれ、無防備な相手の首またはその上に対する接触について、ヘルメット、前腕(肘から手首)、肘、肩での接触を禁止するという規定が追加される。(9-1-3, 9-1-4)

[2]2010年度・公式規則変更

2010年度・公式規則変更内容の条文は、下記の通りです。記載は、次の規則に従っています。

- ① 「「第一章一条」の後の(新規)、(追加)、(変更)は()内の事項が行われた事を示し、それに続く規則文は新変更文である。なお、新規、追加、変更の各用語は次の原則で使用する。2009年度・公式規則変更内容・決定報・変更条文篇に対する変更の場合は、「2009年度変更条文」と記す。
- 新規: 第一章一条、あるいはその下位の項目の単位で、新規に条文が定められた場合。
追加: 文の単位で新たに条文が定められた場合。
変更: 一つの文の中で、条文の変更(単語等の追加を含む)が定められた場合。
- なお、新規、追加、変更、削除等が混在する場合は、変更として扱う。
- ② 下線部は、変更、追加が行われた場合にその部分を示す。削除に関しては削除された部分を< >で囲み、削除文字上に二重線を引いてある。
- ③ 新規の条文の発生、および削除に連動した既存の「第一章一条」およびその下位の項目の番号の変更に
関しては、原則として、この決定報に記載していない。

- 1-4-5-i (追加) 装具、プレーヤー自身、衣類、付着物に塗られた、……または他のすべりやすい物質すべて。(例外: アイ・シェイド。ただし、アイ・シェイドを付ける場合、色は黒一色で、文字、番号、ロゴ、シンボルマークなどを表示してはならない。)
ボールや相手に対しての付着効果を向上させる……(以下変更なし)
- 2-3-6-a (変更) ブロッキング・ゾーンとは、攻撃側中央のラインマンを中心としてサイドラインの方向に左右5
2009年度変更条文 ヤードずつ、ゴールラインの方向に前後3ヤードずつの長さの長方形のゾーンである。
- 3-3-5-a (変更) 負傷したプレーヤーが出た場合は、次のように対処する。
1. 審判員はタイムアウトを取り、タイムアウトを与えられたプレーヤーは、試合から離れなければならない。当該プレーヤーは最低1ダウンは試合に出ることができない。疑わしい場合は、審判員は負傷したプレーヤーのためにタイムアウトを取る。
 2. <ダウン間または節の終了時にチーム・タイムアウトを取れば、プレーヤーは試合から離れなくてもよい。> 当該プレーヤーは、競技団体に認定された資格を有する医務担当者の許可を得るまで、試合に復帰することができない。
 3. 審判員とコーチは、脳震盪の兆候を示すプレーヤーに特に気をつける必要がある。
 4. プレーヤーや審判員などの試合の参加者が負傷し出血している場合、チームエリアに行き、適切な処置(止血など)を受けなければならない。医務担当者等の承諾なしには、試合に戻れない。
- 9-1-2-e (変更) 次の場合、腰より下のブロックをしてはならない。(A. R. 9-1-2-Ⅲ~Ⅸ)
2009年度変更条文 1. スナップ時に攻撃側中央のラインマンから7ヤード以上離れて位置する攻撃側のラインマンは、ニュートラル・ゾーンの手前からニュートラル・ゾーンを越えて10ヤードまでの間で

は、スナップ時のボールの方向に対して腰より下のブロックをしてはならない。

2. バックスは、スナップ時に身体のフレームが完全にブロッキング・ゾーンの左右方向の外側に位置する場合、または身体フレームが完全に攻撃側中央のラインから2人目のラインのフレームの外側に位置する場合、またはモーションをしている場合、ニュートラル・ゾーンの手前からニュートラル・ゾーンを越えて10ヤードまでの間では、スナップ時のボールの方向に対して腰より下のブロックをしてはならない。身体の……(以下変更なし)

- 9-1-3 (変更) ヘルメットの頂点から相手に対して接触を開始し、狙い撃ちすること
すべてのプレーヤーは、ヘルメットの頂点から相手に当たり、狙い撃ちしてはならない。疑わしい場合は、反則である。
罰則: << a → b >> パーソナル・ファウル。15ヤード。……(以下変更なし)
- 9-1-4 (新規) 無防備なプレーヤーの頭部、首部への接触
すべてのプレーヤーは、無防備な相手の頭部および首部に対して、ヘルメット、前腕(肘から手首)、肘、または肩で最初に当たり、狙い撃ちをしてはならない。疑わしい場合は、反則である。「無防備」の定義は、付録1「無防備なプレーヤーの保護」を参照
罰則: 9-1-3と同じ

[3] 2011年度・公式規則変更予定主要項目(予告分)

2011年度の公式規則変更として予定している主要な項目は、次のとおりです。

(1) ライブボール中のスポーツマンらしからぬ行為に対する罰則施行の変更

☆現在、ライブボール中のスポーツマンらしからぬ行為の反則は、デッドボール中の反則として扱い、サクシーディング・スポットから15ヤードの罰則である。

★2011年度より、ライブボール中のスポーツマンらしからぬ行為の反則については、他のライブボール中の反則と同様に取り扱われる。この変更により、ライブボール中にスポーツマンらしからぬ行為の反則があり、かつそのプレーが得点となった場合、罰則を受諾すればライブボール中の反則に対する罰則が適用され、その得点は無効となる。
(9-2-1)

[4] 2010年度・NCAA公式規則変更項目(参考)

2010年度にNCAAでは次の公式規則変更を実施します。日本における今後の採否は、2011年の競技規則委員会(2011年3月開催予定)で決定しますが、参考として記載します。

(1) キックオフ時のレシービング・チームによるウェッジ・フォーメーション

★2010年度よりNCAAでは、キックオフ時にレシービング・チームがボールキャリアのためにブロックすることを目的に、3人以上のウェッジ・フォーメーションを組むことが禁止される。ウェッジ・フォーメーションとは、複数のプレーヤーが横一列に肩の間を2ヤード以内に近づけて位置することである。相手との接触の有無にかかわらず反則となる。オンサイドキックが明白な場合は、反則ではない。反則地点、あるいはプレー後のデッドボールがBチームに所属する地点が反則地点より後方の場合は、その地点から15ヤードの罰則である。[S27]
(6-1-9) 以上